

McLaren

Honda MP4/4

1988 WORLD CHAMPIONSHIP WINNING CAR

11

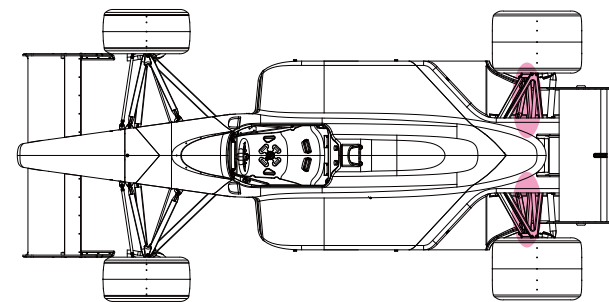
マクラーレン ホンダ
MP4/4

最速の世界を制した伝説のメモリアルマシンを
内部機構まで完全再現！



Mission 39 リアサスペンションに プッシュロッドを取り付ける

今号は、まずリアサスペンションの左右とプッシュロッドの向きを確認しておく。そして、ベルクランク(左上)(右上)の突起にそれぞれプッシュロッドを取り付けた後、仮留めをする。次に左右のリアサスペンションをベルクランク(左下)(右下)の突起に乗せ、ベルクランク(左上)と(左下)、(右上)と(右下)それぞれを組み合わせる。



今号のパーツ

- ①ベルクランク(左上) ②ベルクランク(左下) ③ベルクランク(右下) ④ベルクランク(右上)



※①と②は組み合わせた状態で梱包。

※③と④は組み合わせた状態で梱包。



⑤ プッシュロッド×2 **ダイキャスト製**



⑥ビスM (1.4×4P-M SiL)×3



⑦ビスR (1.4×4F-M BK)×3



※ビスは予備1本を含む。

※①～④はHIPS (スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

- ・プラスドライバー (00番)
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・カッター
- ・マスキングテープ

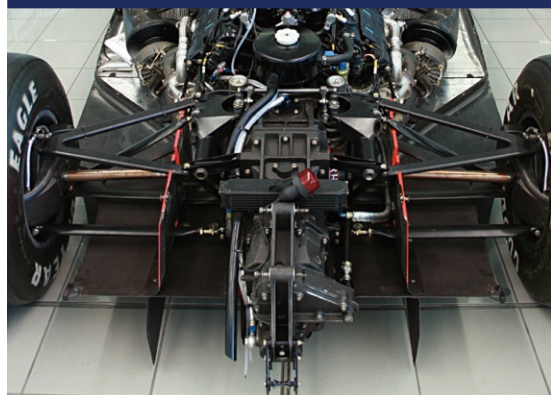
用意するもの

- ・左のリアサスペンション ※34号で組み立て
- ・右のリアサスペンション ※34号で組み立て

ポイント

プッシュロッドの向きを確認する

●プッシュロッドは翼断面の形状をしているのが特徴だ。プッシュロッドを取り付ける向きは、先端がシルバーに塗られている部分が車体側、さらに上下にあるビス取付部分を赤い点線で結んだ場合、点線との幅の狭い方を車体の前方に取り付ける。取り付ける際には、それらの向きに注意しよう。



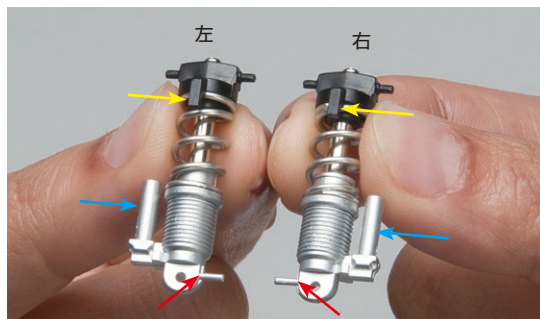
プッシュロッドは、ベルクランクを介してサスペンションへさまざまな路面状況を伝達し、リアタイヤを確実に接地させ走行性能を最大限に引き上げるための重要な部品のひとつだ。本モデルのプッシュロッドは、サスアーム同様にダイキャスト製で、その形状やジョイント部の塗り分けなどにより、実車のディテールを再現している。

◀MP4/4の後方部分。

In Focus

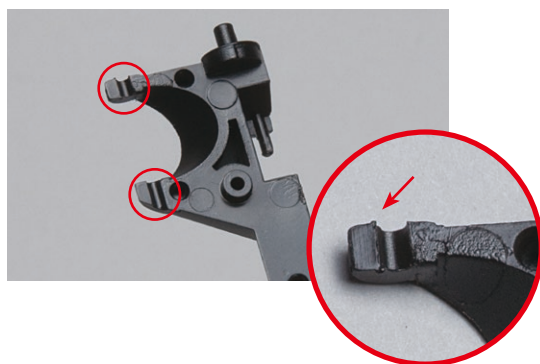
1 左右のリアサスペンション 取り付け前の確認

● 34号で組み立てた左右のリアサスペンションを
用いる。赤矢印で示した突起と面に段差がない部分
を正面に向けた場合、青矢印で示した銀色の突起が左側
にあるものが左、右側にあるものが右になる。また、
それぞれのリアサスペンションキャップは、黄色い矢印
で示した黒い突起が写真のように正面を向いている
ことを確認する。



2 ベルクランク (左上) (左下) (右下) (右上) 取り付け前の準備

● ① ベルクランク(左上)、② ベルクランク(左
下)、③ ベルクランク(右下)、④ ベルクランク(右上)の
それぞれ二股に別れた先に赤丸で示したような溝があ
る。この部分に赤矢印で示したようなバリがある場合
は、パーツに傷をつけないよう注意しながら、カッター
で取り除いておく。



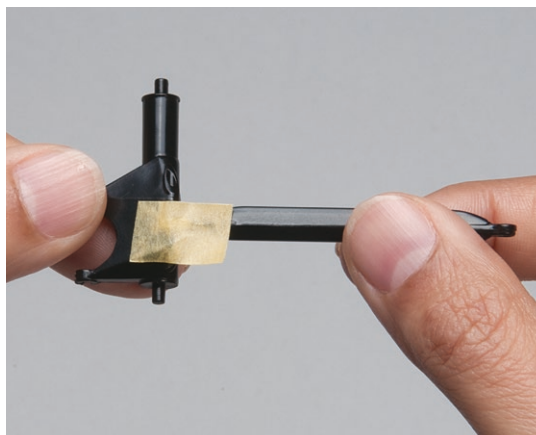
3 ベルクランク (左上) (左下) に プッシュロッド、左のリアサスペン ションを取り付ける

● ベルクランク(左上)の赤矢印で示した突起
に⑤プッシュロッドのシルバー側の先端を写真のよう
な向きで組み合わせる。



■ プッシュロッドの前後の向き
に注意する。

● 1センチ程度にカットしたマスキングテープを用意
し、写真のようにベルクランク(左上)とプッシュロッド
が外れないよう仮留めをする。

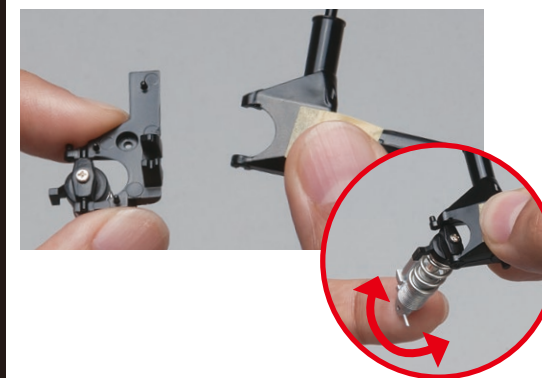


● ベルクランク(左下)の赤矢印で示した溝の部分に、
左のリアサスペンションの赤丸で示した突起を乗せる。



■ 左のリアサスペンションの
青矢印で示した突起が外側に
向くようにする。

● ベルクランク(左上)をベルクランク(左下)に組み合
わせ、左のリアサスペンションが写真のように動くこと
を確認する。



● 組み合わせたベルクランク(左上) (左下)を裏返し、
赤丸で示した部分に⑦ビスRを差し、プラスドライバー
(00番)で締める。



- マスキングテープをはがし、プッシュロッドが写真のように動くことを確認する。



- ベルクランク(左上)(右下)にプッシュロッド、左のリアサスペンションが取り付けられ、リアサスペンションユニット(左)ができた。



- 黄色い矢印で示した突起と青矢印で示した突起、プッシュロッドの向きが写真のようになっていることを確認する。

4

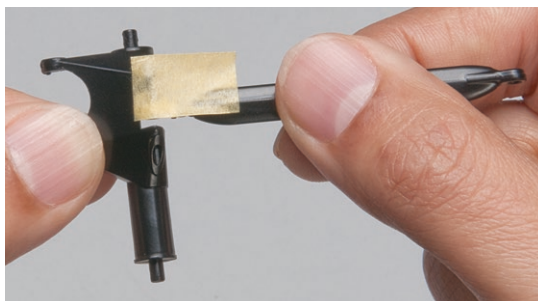
ベルクランク(右上)(右下)にプッシュロッド、右のリアサスペンションを取り付ける。

- ステップ 3と同様に、ベルクランク(右上)の赤矢印で示した突起にプッシュロッドのシルバー側の先端を合わせる。

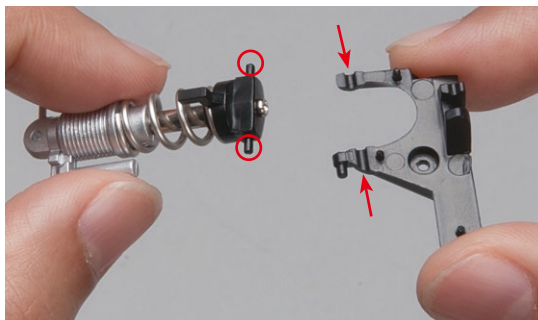


- プッシュロッドの前後の向きに注意する。

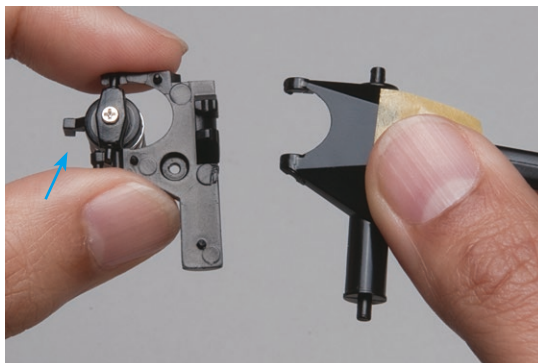
- 1センチ程度にカットしたマスキングテープを用意し、写真のようにベルクランク(右上)とプッシュロッドが外れないよう仮留めをする。



- ベルクランク(右下)の赤矢印で示した溝の部分に、右のリアサスペンションの赤丸で示した突起を乗せる。

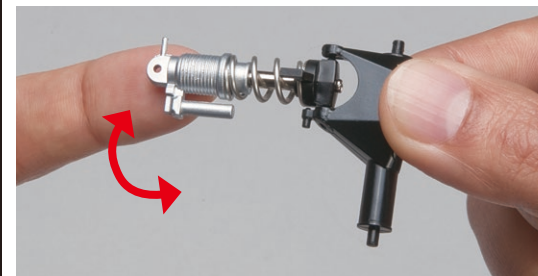


- ベルクランク(右上)をベルクランク(右下)に組み合わせる。

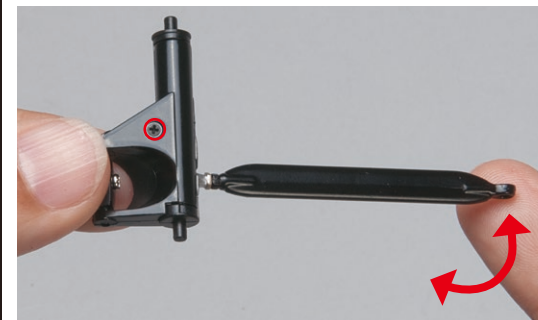


- 右のリアサスペンションの青矢印で示した突起が外側に向くようにする。

- 右のリアサスペンションが写真のように動くことを確認する。



- 組み合わせたベルクランク(右上)(右下)を裏返し、赤丸で示した部分にビスRを差し、プラスドライバー(00番)で締めた後、マスキングテープをはがして、プッシュロッドが写真のように動くことを確認する。



- ベルクランク(右上)(右下)にプッシュロッド、右のリアサスペンションが取り付けられ、リアサスペンションユニット(右)ができた。



- 黄色い矢印で示した突起と青矢印で示した突起、プッシュロッドの向きが写真のようになっていることを確認する。

今号の完成

左右のベルクランクそれぞれにプッシュロッド、リアサスペンションが取り付けられ、リアサスペンションユニット(左)(右)ができた。



保管パーツ

今号使用しなかった⑥ビスMは、プッシュロッドをギアボックスに取り付ける際に必要になるので、ビス用の袋に入れるなどして大切に保管しておこう。



ディテールアップ

プッシュロッドのスミ入れ

●プッシュロッドの銀色の部分全体にスミ入れをすると重厚感が増す。この作業は、今号の作業前でも、作業後でもどちらでもよい。



※スミ入れは任意の作業だ。詳しいスミ入れ工程については、9号の組み立てガイドを参考にしよう。

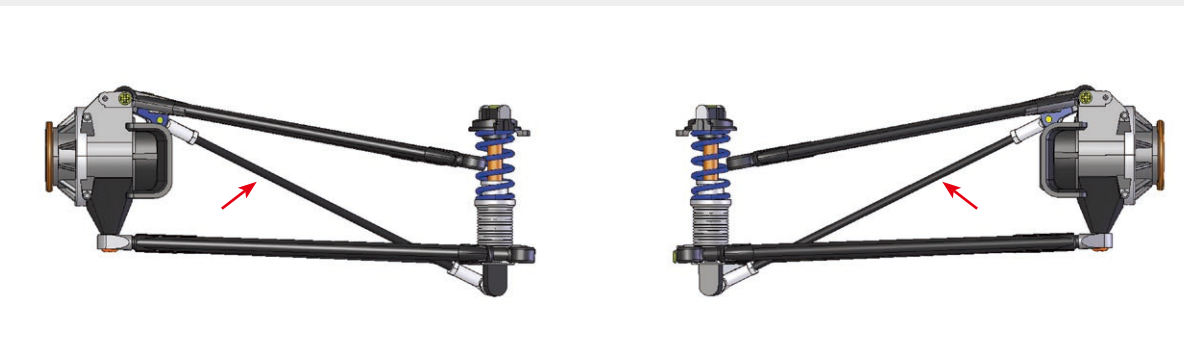
PIT IN

プルロッドとプッシュロッド

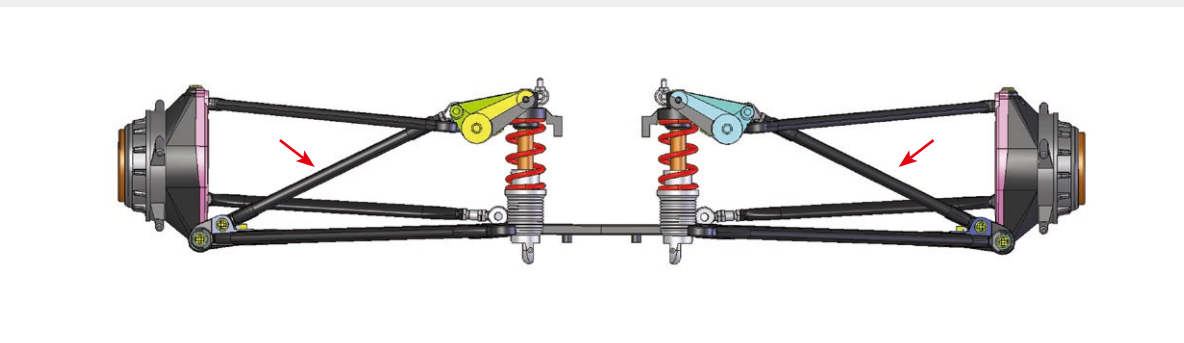
プルロッドとプッシュロッド、それぞれの違いと役割

アップライトとサスペンションをつなぐロッドは、その働きによってプルロッドとプッシュロッドに区別され、MP4/4ではフロントにプルロッド、リアにプッシュロッドが採用されている。

プルロッドは、タイヤが持ち上がる時にサスペンションを「引く(pull)」方向に働くため、左右のプルロッドは逆八字形に取り付けられる。プルロッドに要求されるのは「引っ張り強度」なので、ロッド自体は細く、軽量化が図れる。一方、プッシュロッドは、タイヤが持ち上がる時にサスペンションを「押す(push)」方向に働くため、左右のプッシュロッドは八字形に取り付けられる。プッシュロッドには「圧縮強度」がかかるため、プルロッドよりも丈夫な構造が必要となる。本モデルでは可動はしないものの、その構造を可能な限り再現している。



赤矢印で示した部分がプルロッド

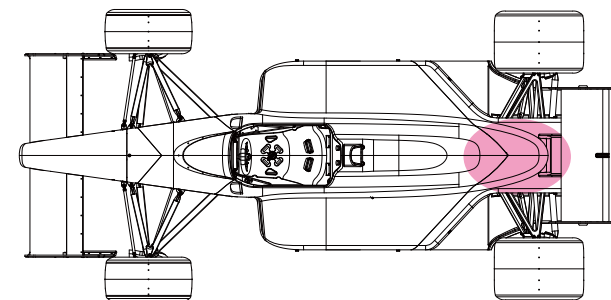


赤矢印で示した部分がプッシュロッド

※イラストはモデルパーツを組み合わせたイメージ図。

Mission 40 ギアボックスを組み立てる③

今号は、まずギアボックス(上)にギアボックスオイルラインアダプターを取り付け、ボルトA、ボルトBをそれぞれ装着して、ディテールをより実車に近づける。次に準備をしたホースBをブレーキラインTピースに接続し、さらにリアダンパーリザーバー(左)(右)とリアサスペンションユニット(左)(右)をホースBで接続する。



今号のパーツ

① リアサスペンションプレート(前)



④ ギアボックス(上)



② リアアンチロールバー ダイキャスト製



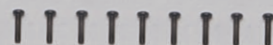
⑤ ホースB (Φ 1.4 × 700)



③ リアサスペンションプレート(後)



⑥ ビスJ (1.4 × 6P-M BK) × 9



※ビスは予備 1 本を含む。

※①③④はPA(ナイロン)製

今号で使用する道具

- ・瞬間接着剤・カッター・カッティングマット
- ・はさみ・定規・ピンセット・つまようじ

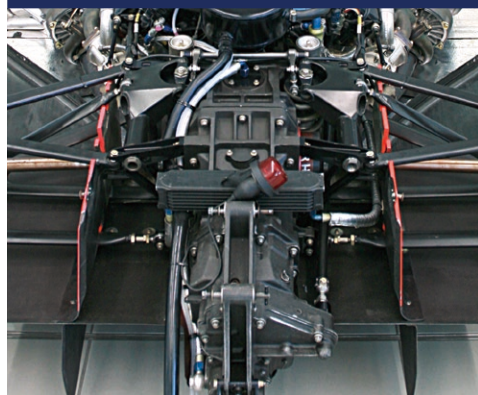
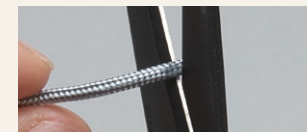
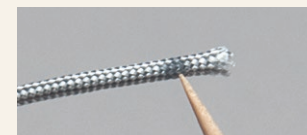
用意するもの

- ・ギアボックスオイルラインアダプター ※34号で提供
- ・ボルトA × 3 ※34号で提供のランナーパーツ
- ・ボルトB × 2 ※34号で提供のランナーパーツ
- ・ブレーキラインTピース ※34号で組み立て
- ・リアダンパーリザーバー(左)(右) ※36号で組み立て
- ・リアサスペンションユニット(左)(右) ※39号で組み立て

ポイント

ホースBの準備

●ホースBの先端は、そのままではほつれてしまう。そのため、使い始める際には、瞬間接着剤を先端から少し内側に少量塗って1分ほど置いた後に、固まった部分をカットし、中心につまようじを差し込んで穴を確認する。



ギアボックスには多数のボルトが使用されており、ギアボックスの黒に対してシルバーのボルトがアクセントになっている。本モデルでギアボックス(上)に採用したPA(ナイロン)素材にはボルト部分の塗装ができないため、ボルトをHIPS(スチロール樹脂)製の別パーツとしてシルバーに塗装し取り付けることで実車のディテールを再現した。

◀MP4/4のギアボックス。

In Focus

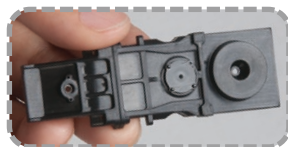
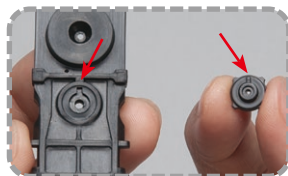
1 ギアボックス(上)にギアボックスオイルラインアダプターを取り付ける

- 34号で提供されたギアボックスオイルラインアダプターを用意する。

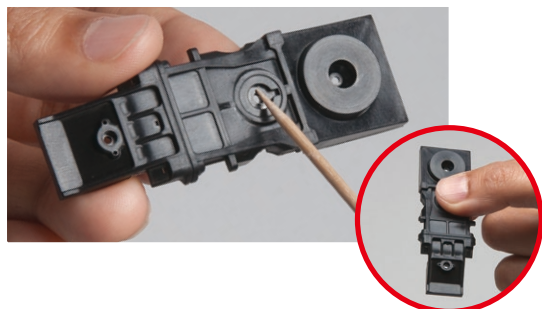


《仮組み》

- ④ ギアボックス(上)の赤矢印で示した凹みとギアボックスオイルラインアダプターの赤矢印で示した突起を組み合わせ、接着面を確認する。



- ギアボックス(上)の接着面の一番低い凹みに瞬間接着剤をつまようじで少量塗り、仮組みしたようにギアボックスオイルラインアダプターを組み合わせて、1分ほど押さえる。

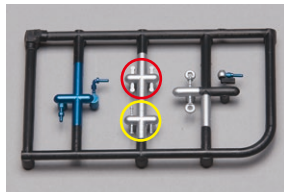


- ギアボックス(上)にギアボックスオイルラインアダプターが取り付けられた。



2 ギアボックス(上)にボルトA、ボルトBを取り付ける

- 34号で提供されたランナーパーツを用意する。



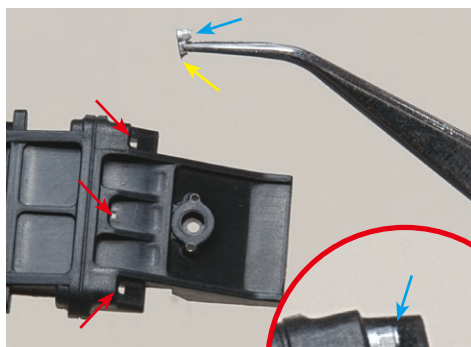
- 赤丸で示した部分がボルトA×4、黄色い丸で示した部分がボルトB×3。それぞれ1本ずつ予備が含まれる。

- ランナーパーツを裏返し、ランナーからボルトAをカッターでカットする。

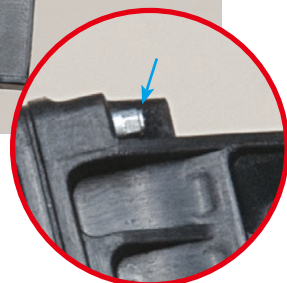


- パーツが小さいため、一度に全て切り離すと紛失することがあるので、1つずつカットして次の作業に進む。

- ギアボックス(上)の赤矢印で示した3箇所に、ボルトAをそれぞれ写真のような向きで差し込む。



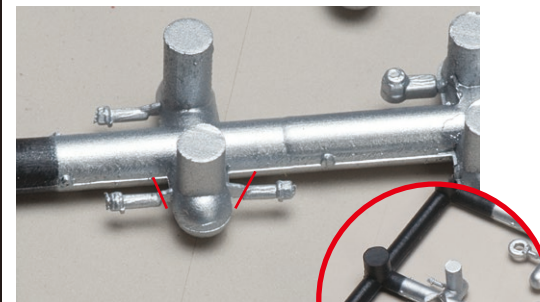
- ボルトAは青矢印で示した突起を外側に向け、黄色い矢印で示したゲートを切り離した部分を穴に差し込む。



- ギアボックス(上)にボルトA×3が取り付けられた。

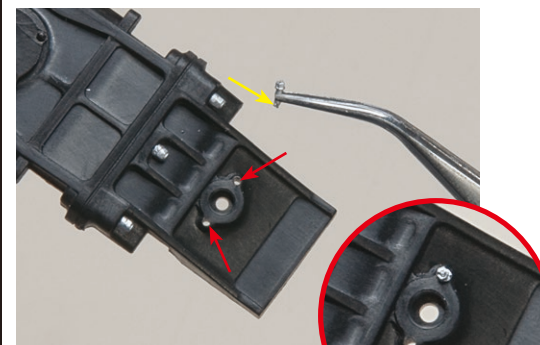


- ランナーパーツを裏返し、ランナーから赤線のようにボルトBをカッターでカットする。



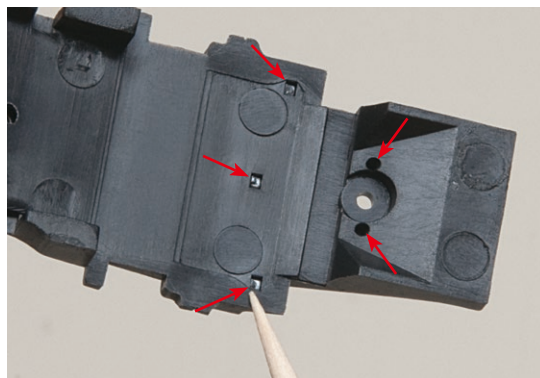
- パーツを傷つけないよう注意しながら、パーツのぎりぎりをカットする。

- ギアボックス(上)の赤矢印で示した2箇所にそれぞれにボルトBを差し込む。

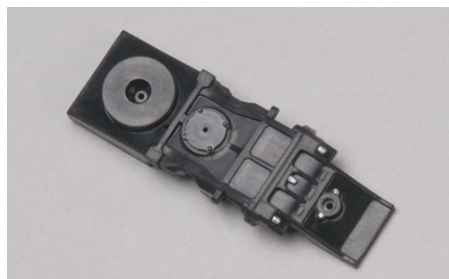


- ゲートを切り離した黄色い矢印で示した部分を穴に差し込む。

- ギアボックス(上)を裏返し、赤矢印で示したボルトA、ボルトBを取り付けた部分5箇所につまようじで瞬間接着剤を少量塗る。

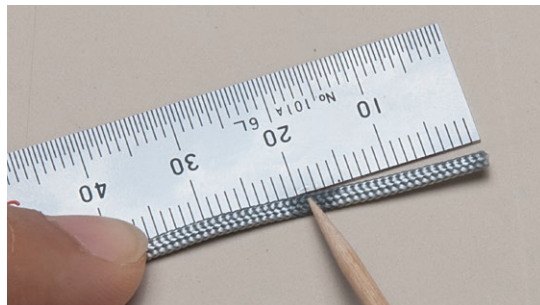


- ギアボックス(上)にボルトA、ボルトBが取り付けられた。



3 ホースBを準備する

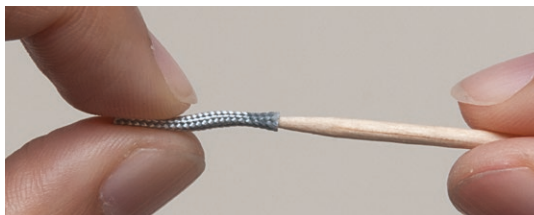
- ⑤ ホースBの端から19ミリの部分につまようじで瞬間接着剤を少量塗り、1分ほど置く。



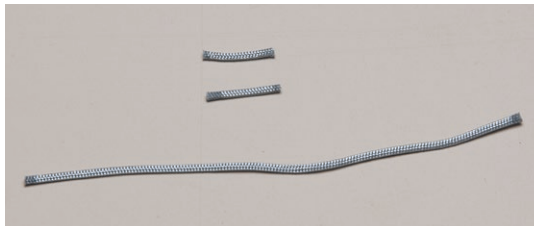
- 端から19ミリの固まった部分をカットする。



- カットした部分のそれぞれ端につまようじを差し、穴を広げておく。



- 同様にして、同じ19ミリの長さのものをもう1本と135ミリの長さのものを1本用意する。



4 ブレーキラインTピースにホースBを接続する

- 34号で組み立てたブレーキラインTピースを用意する。



- ブレーキラインTピースの赤矢印で示した突起につまようじで瞬間接着剤を少量塗る。



- ステップ3で用意した135ミリのホースBの端を差し込み、ピンセットで1分ほど押さえる。



- ブレーキラインTピースにホースBが接続された。

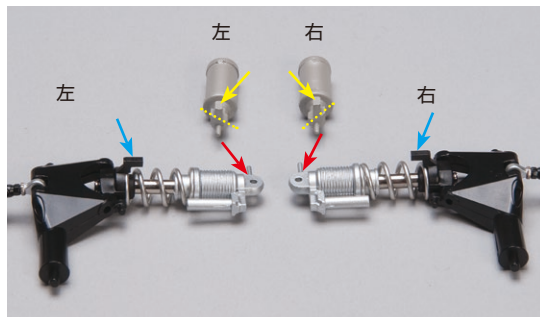


5 リアダンパーリザーバー(左)(右)とリアサスペンションユニット(左)(右)にホースBを接続する

- 36号で組み立てたリアダンパーリザーバー(左)(右)と39号で組み立てたリアサスペンションユニット(左)(右)を用意する。

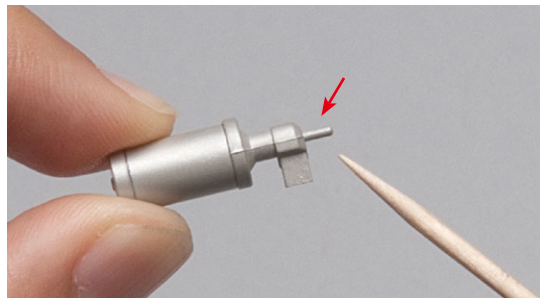


- リアダンパーリザーバー(左)(右)とリアサスペンションユニット(左)(右)の左右を確認する。



■赤矢印で示した突起と面に段差がないこと、青矢印で示した黒い突起が写真のような向きになっていること、黄色い矢印で示した突起を上に向けた場合に黄色い点線で示した部分が写真のようになっていることを確認する。

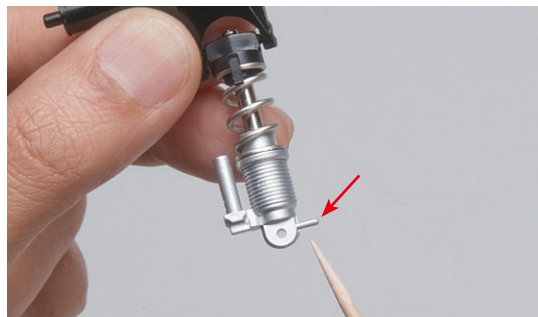
- リアダンパーリザーバー(左)の赤矢印で示した突起に、つまようじで瞬間接着剤を少量塗る。



- ステップ3で用意した19ミリのホースBの先端を差し込み、ピンセットで1分ほど押さえる。



- リアサスペンションユニット(左)の赤矢印で示した突起に、つまようじで瞬間接着剤を少量塗る。



- リアサスペンションユニット(左)の瞬間接着剤を塗った突起に、リアダンパーリザーバー(左)に接続したホースBのもう片方の端を差し込み、ピンセットで1分ほど押さえる。



- リアサスペンションユニット(左)の赤矢印で示した突起とリアダンパーリザーバー(左)の青矢印で示した突起の向きを写真のように合わせる。

- 同様に、リアダンパーリザーバー(右)とリアサスペンションユニット(右)に残りの19ミリのホースBを接続する。



- リアダンパーリザーバー(左)(右)とリアサスペンションユニット(左)(右)にホースBを接続された。



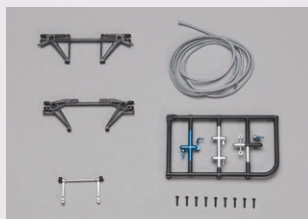
今号の完成

ギアボックス(上)にギアボックスオイルラインアダプター、ボルトA、ボルトBが取り付けられたほか、ホースBがブレーキラインTピース、リアダンパーリザーバー(左)(右)とリアサスペンションユニット(左)(右)それぞれに接続された。



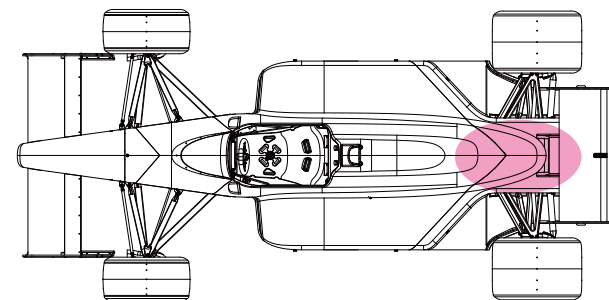
保管パーツ

今号で使用しなかった①リアサスペンションプレート(前)、②リアアンチロールバー、③リアサスペンションプレート(後)、④ビスJ×9、⑤ホースBの残り、そのほかランナーパーツに残ったギアボックスオイルラインユニオンB、ギアボックスオイルラインユニオンD、ギアボックスオイルラインユニオンE、ドロップリンク×2は、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。



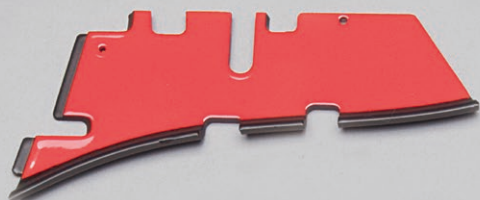
Mission 41 ギアボックスを組み立てる④

今号は、まずギアボックスにオイルラインユニオンDを取り付け、ホースBを接続する。さらに、リアサスペンションプレート(後)を装着した後、リアサスペンションユニット(左)(右)をそれぞれ取り付け、リアサスペンションプレート(前)を装着して、それらを固定する。



今号のパーツ

① クォーターパネル(左)



④ トーリンクブラケット メタル製



② リアサスアーム(左上)
ダイキャスト製



③ トーリンク(左)
ダイキャスト製



⑤ ビスG (2.0×6P-TP BK)×4



⑥ ビスP (1.4×6P-M SiL)×2



※ビスは予備1本を含む。

※①はHIPS(スチロール樹脂)製

リアサスペンションプレートは、左右のリアサスアーム(上)やベルクランクなどが取り付けられ、リアサスペンションの支柱となる重要な部品だ。強度が要求される実車では金属製となっているが、本モデルではそのシャープなディテールを再現するためにダイキャスト製ではなく、樹脂製となっている。また、このパーツはモデル自体の重量を支えるための強度が必要なので、HIPS(スチロール樹脂)ではなく、PA(ナイロン)を採用している。

◀MP4/4の左側面のクォーターパネル付近。

今号で使用する道具

- ・ プラスドライバー (00番) ※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・ 瞬間接着剤・カッター・カットングマット
- ・ 定規・ピンセット・つまようじ

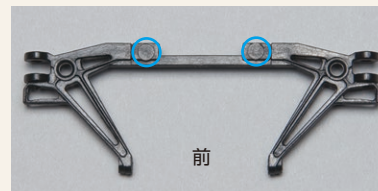
用意するもの

- ・ ギアボックスオイルラインユニオンD ※34号で提供のランナーパーツ
- ・ ギアボックス ※38号で組み立て
- ・ リアサスペンションプレート(前)(後) ※40号で提供
- ・ リアサスペンションユニット(左)(右) ※40号で組み立て
- ・ ホースB ※40号で使用
- ・ ビスJ (1.4×6P-M BK)×6 ※40号で提供

ポイント

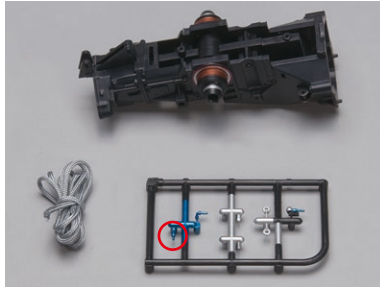
リアサスペンションプレート(後)の前後の見分け方

- リアサスペンションプレート(後)は青丸で示した部分に丸いゲート跡がある方が前、黄色い丸で示した穴の周りが六角形をしている方が後ろになる。



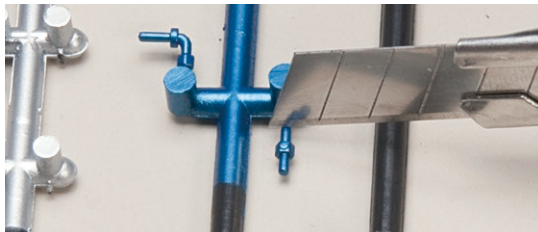
1 ギアボックスにギアボックスオイルラインユニオンDとホースBを取り付ける

● 38号で組み立てたギアボックスと34号で提供されたランナーパーツのギアボックスオイルラインユニオンD、40号で使用したホースBを用意する。



■ 赤丸で囲んだ部分がギアボックスオイルラインユニオンD。

● ランナーパーツを裏返し、ギアボックスオイルラインユニオンDをランナーからカッターでカットする。



■ パーツを傷つけないように注意しながら、パーツとゲートのギリギリをカットする。

● ギアボックスの右側面にある赤丸で示した穴に、つまようじで瞬間接着剤を少量塗る。

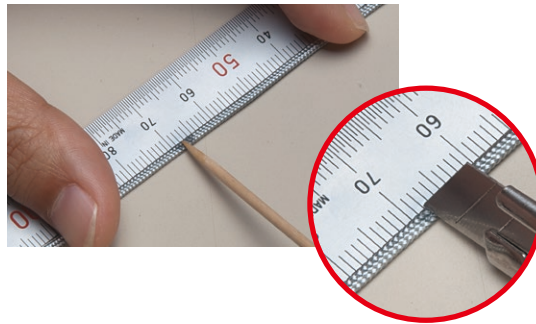


● 瞬間接着剤を塗った穴にギアボックスオイルラインユニオンDを差し込み、1分ほど押さえる。

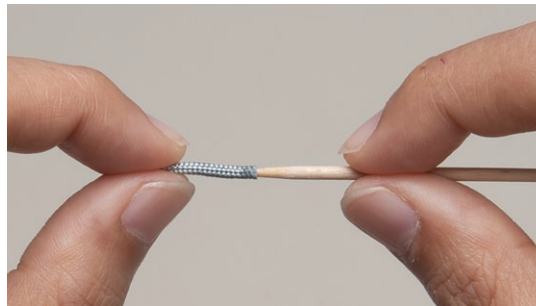


■ ゲートを切り離れた黄色い矢印で示した部分を穴に差し込む。

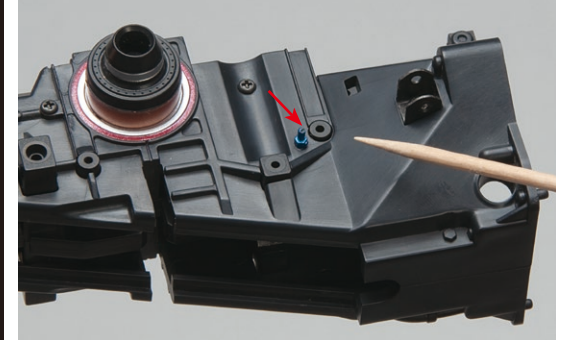
● ホースBの端から68ミリの部分につまようじで瞬間接着剤を少量塗り、1分ほど置いた後、端から68ミリの固まった部分をカッターでカットする。



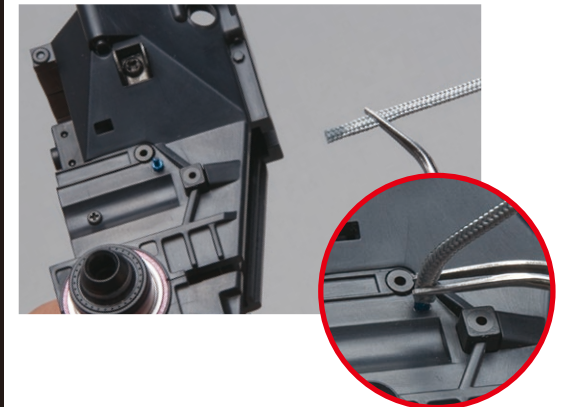
● カットした部分の端につまようじを差して、穴を確認する。



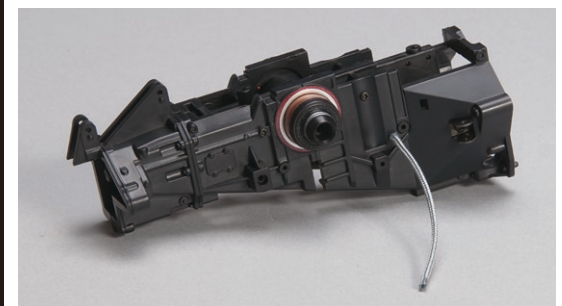
● ギアボックスオイルラインユニオンDの赤矢印で示した先端に、つまようじで瞬間接着剤を少量塗る。



● 瞬間接着剤を塗ったギアボックスオイルラインユニオンDの先端に、ホースBをピンセットで差し込み、1分ほど押さえる。



● ギアボックスにギアボックスオイルラインユニオンDとホースBが取り付けられた。

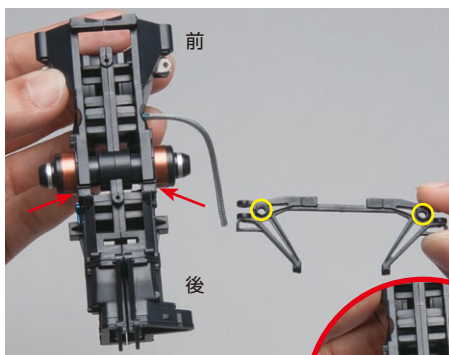


2 ギアボックスにリアサスペンションプレート(後)を装着する

- 40号で提供されたリアサスペンションプレート(後)とビスJ×2を用意する。



- ギアボックスの赤矢印で示した溝にリアサスペンションプレート(後)を写真のように差し込む。



- リアサスペンションプレート(後)は、黄色い丸で示した穴の周りが六角形をしている方が後ろになる。

- 赤丸で示したギアボックスの左側面にあるビス穴とリアサスペンションプレート(後)のビス穴を重ねてビスJを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



- 同様に、赤丸で示したギアボックスの右側面にあるビス穴とリアサスペンションプレート(後)のビス穴を重ねてビスJを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



3 ギアボックスにリアサスペンションユニット(左)(右)とリアサスペンションプレート(前)を取り付ける

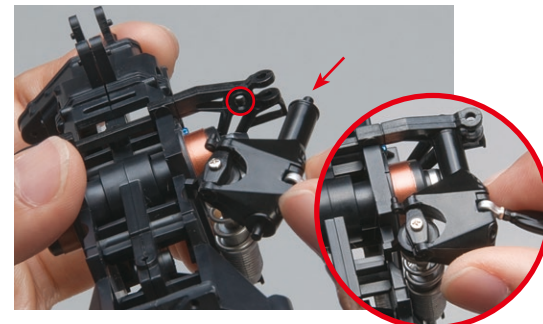
- 40号で組み立てたリアサスペンションユニット(左)(右)と40号で提供されたリアサスペンションプレート(前)、ビスJ×4を用意する。



- ギアボックスの左側の赤丸で示したビス穴にリアサスペンションユニット(左)の黄色い丸で示したビス穴を合わせ、ビスJを差し、プラスドライバー(00番)で半分程度まで締める。



- リアサスペンションユニット(左)の赤矢印で示したベルクランクの先端をリアサスペンションプレート(後)の赤丸で示した穴に差し込む。



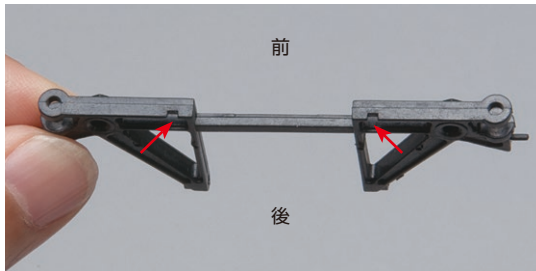
- リアサスペンションユニット(左)とリアサスペンションプレート(後)が外れないようしっかり押さえながら、先ほど半分締めたビスJを最後まで締めて固定する。



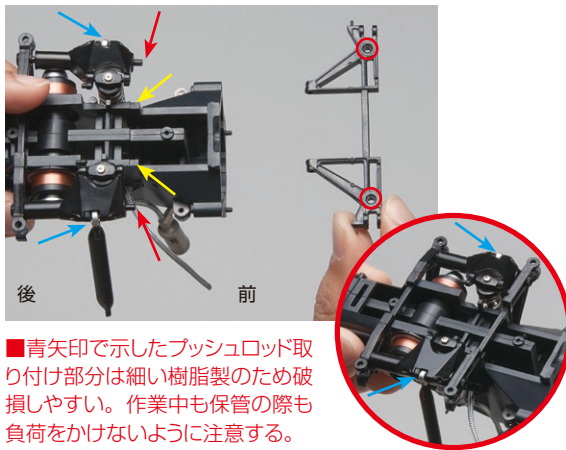
- 同様に、ギアボックスの右側面にあるビス穴にリアサスペンションユニット(右)のビス穴を合わせ、ビスJを差し、プラスドライバー(00番)で半分程度まで締め、ベルクランクの先端をリアサスペンションプレート(後)の穴に差し込み、しっかり押さえながら先ほど半分締めたビスJを最後まで締めて固定する。



● リアサスペンションプレート(前)は、赤矢印で示した切り欠きのある方が後ろになるので、確認しておく。



● 左右のベルクランクの赤矢印で示した先端とリアサスペンションプレート(前)の赤丸で示した部分を合わせるようにして、リアサスペンションプレート(前)をギアボックスの黄色い矢印で示した部分に差し込む。

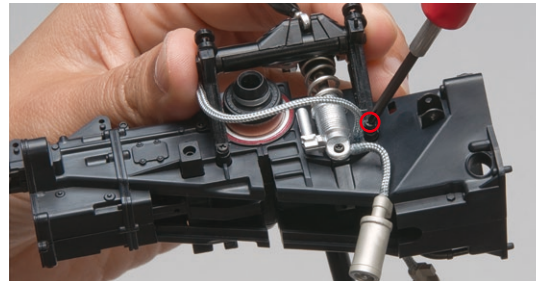


■ 青矢印で示したプッシュロッド取り付け部分は細い樹脂製のため破損しやすい。作業中も保管の際も負荷をかけないように注意する。

● ギアボックスの左側面、赤丸で示したビス穴にビスJを差しプラスチックドライバー (00番)で締める。

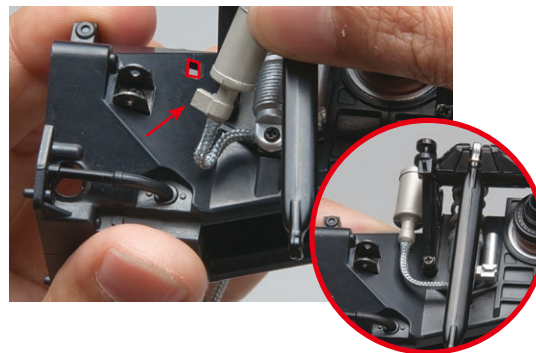


● 同様に、ギアボックスの右側面、赤丸で示したビス穴にビスJを差しプラスチックドライバー (00番)で締める。

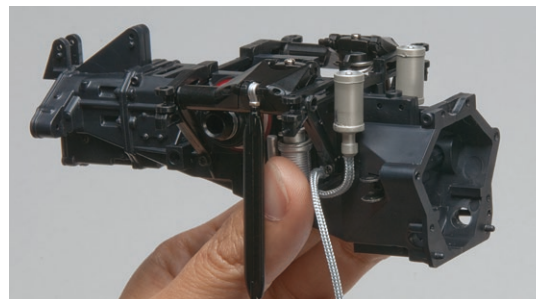


■ ギアボックスオイルラインユニオンDに取り付けたホースBは、写真のようにリアサスペンションユニット(右)に取り付けたホースJの上に出るようにする。

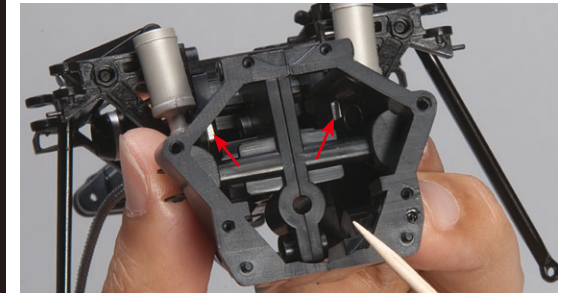
● ギアボックス左側面の赤枠で示した凹みに、リアサスペンションユニット(左)のリアダンパーリザーバーの赤矢印で示した突起を差し込む。



● 同様に、ギアボックスの右側面の凹みに、リアサスペンションユニット(右)のリアダンパーリザーバーの突起を差し込む。



● 差し込んだリアダンパーリザーバーが外れないように両側から押さえながら、ギアボックスの内側の赤矢印で示した突起が突き出ている部分に、つまようじで瞬間接着剤を塗り1分ほど押さえる。



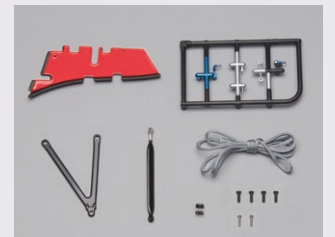
今号の完成

ギアボックスにギアボックスオイルラインユニオンDとホースBを取り付け、リアサスペンションプレート(前)(後)とリアサスペンションユニット(左)(右)を装着した。



保管パーツ

今号で使用しなかった①クォーターパネル(左)、②リアササアーム(左上)、③トーリンク(左)、④トーリンクブラケット、⑤ビスG×4、⑥ビスP×2のほか、ランナーパーツのギアボックスオイルラインユニオンB、ギアボックスオイルラインユニオンE、ドロップリンク×2、ホースBの残りは、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。



Mission 42 ギアボックスを組み立てる⑤

今号は、まずギアボックスにリアサスアーム(下)を取り付ける。次に、ブレーキラインTピースを装着したギアボックス(上)、トーリンクブラケット、ドロップリンク、リアアンチロールバーを取り付けて、ギアボックスをさらに完成に近づけていく。

今号のパーツ

① クォーターパネル(右)



② リアサスアーム(右上)
ダイキャスト製



③ トーリンク(右)
ダイキャスト製



④ トーリンクブラケット メタル製



⑤ ビスG (2.0×6P-TP BK)×4

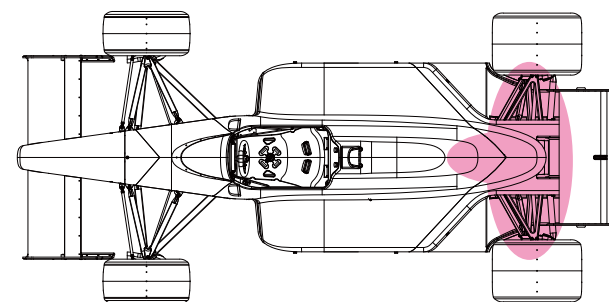


⑥ ビスP (1.4×6P-M SiL)×2



※ビスは予備1本を含む。

※①はHIPS(スチロール樹脂)製



今号で使用する道具

- ・プラスドライバー(00番) ※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・プラスドライバー(0番) ※22号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・瞬間接着剤・マスキングテープ・カッター
- ・カッティングマット・ピンセット・つまようじ

用意するもの

- ・ドロップリンク×2 ※34号で提供のランナーパーツ
- ・リアサスアーム(下) ※38号で組み立て
- ・リアアンチロールバー ※40号で提供
- ・ギアボックス(上) ※40号で組み立て
- ・ブレーキラインTピース ※40号で組み立て
- ・トーリンクブラケット ※41号で提供
- ・ギアボックス ※41号で組み立て
- ・ビスP (1.4×6P-M SiL)×2 ※38号で提供
- ・ビスM (1.4×4P-M SiL)×2 ※39号で提供
- ・ビスJ (1.4×6P-M BK)×2 ※40号で提供
- ・ビスG (2.0×6P-TP BK)×1 ※41号で提供

ポイント

トーリンクブラケットが取り付けにくい場合

- トーリンクブラケットを取り付ける際にビスGが締めにくい場合は、まずビス穴にビスGを差して締めてビス穴を切り、それからトーリンクブラケットを取り付けるとよい。



クォーターパネルは、リア周りに取り付けられるボディの一部でギアボックスの保護や、走行時の空気の流れを整える役割がある。本モデルのクォーターパネルは、実車のイメージに近づけた色を採用し塗り分けているが、そのディテールについては、組み立てやすさを考慮してデフォルメを加えている。

◀MP4/4のクォーターパネル。

In Focus

1 ギアボックスにリアサスアーム(下)を取り付ける

● 41号で組み立てたギアボックスと38号で組み立てたリアサスアーム(下)、38号で提供されたビスP×2、39号で提供されたビスM×2を用意する。

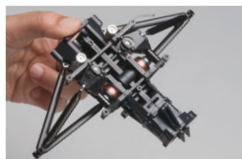


● ギアボックスとリアサスアーム(下)は、写真のように下側を上にして持ち、リアサスアーム(下)の赤丸で示した左右のビス穴を、ギアボックスの赤矢印で示した左右のリアサスアームブラケットに合わせ、次にギアボックスの黄色い矢印で示した溝にリアサスアームをはめる。

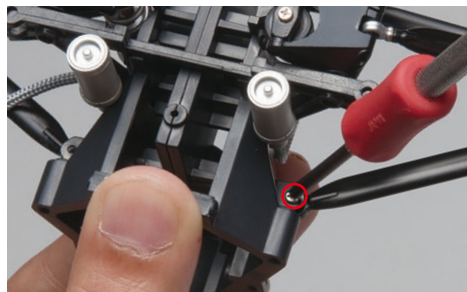


■ 青矢印で示したプッシュロッド取付部分に負担をかけないように注意する。

● ギアボックスから外れないようリアサスアーム(下)を押さえながら裏返す。



● 赤丸で示したビス穴にビスPを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



■ ビスPのネジ頭がサスアームブラケットに接した所で締めるのをやめる。

● 同様に、もう片方の赤丸で示したビス穴にもビスPを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



● プッシュロッドの先端をプッシュロッドブラケットに合わせ、車体前方からビスMを差し、プラスドライバー(00番)で締める。

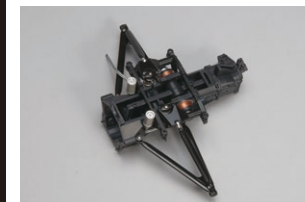


■ ビスPのネジ頭がプッシュロッドブラケットに接した所で締めるのをやめる。

● 同様に、もう片方もプッシュロッドの先端をプッシュロッドブラケットに合わせ、写真のような向きにビスMを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



● ギアボックスにリアサスアーム(下)が取り付けられ、左右のプッシュロッドが固定された。

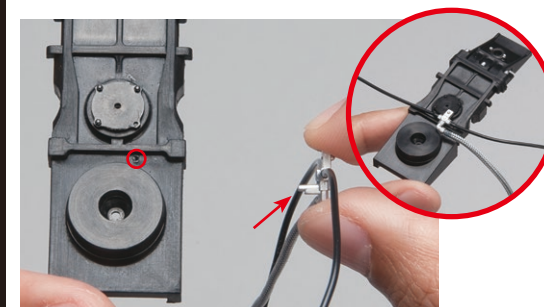


2 ギアボックス(上)にブレーキラインTピースを取り付ける

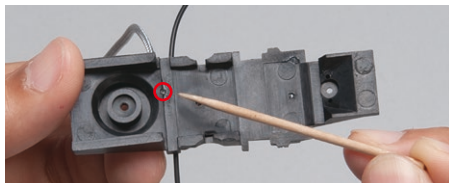
● 40号で組み立てたブレーキラインTピースとギアボックス(上)を用意する。



● ギアボックス(上)の赤丸で示した穴に、ブレーキラインTピースの赤矢印で示した突起を差し込む。



- ブレーキラインTピースが外れないように押さえながら裏返し、赤丸で示したブレーキラインTピースを差し込んだ穴につまようじで瞬間接着剤を少量塗り、1分間ほど置く。



- ギアボックス(上)にブレーキラインTピースが取り付けられた。



3 ギアボックスにギアボックス(上)とトールリンクブラケットを取り付ける

- 40号で提供されたビスJ×2、41号で提供されたトールリンクブラケットとビスG×1を用意する。

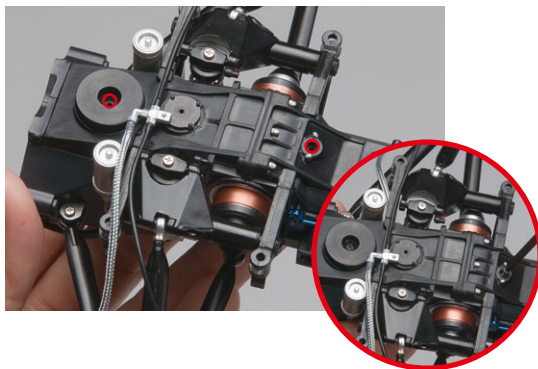


- ギアボックス(上)を写真のようにギアボックスに組み合わせる。

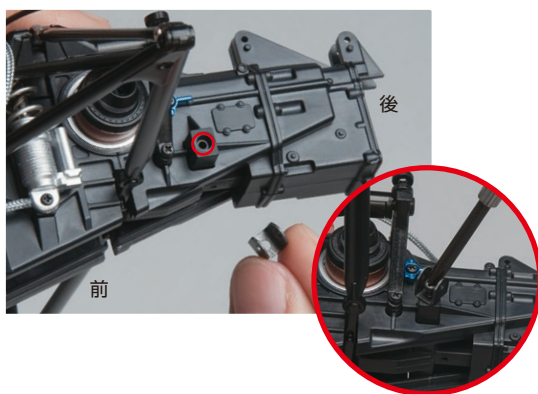


- ギアボックスとギアボックス(上)は隙間がないよう、きちんとはめる。

- 赤丸で示した2箇所、それぞれにビスJを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



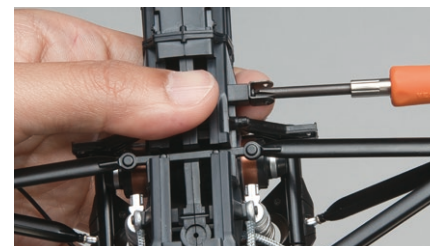
- ④トールリンクブラケットをギアボックスの赤丸で示した部分に合わせ、⑤ビスGを差し込み、プラスドライバー(0番)で締める。



- ビスGを完全に締める前に、赤矢印で示したビス山の切られた部分を車体の前方に向ける。



- 同様に、反対側もギアボックスのビス穴にトールリンクブラケットを合わせ、ビスGを差し込み、写真のような向きに合わせてプラスドライバー(0番)で締める。

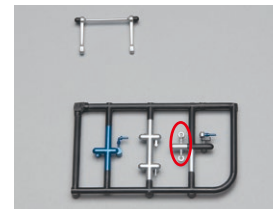


- ギアボックスにギアボックス(上)とトールリンクブラケットが取り付けられた。



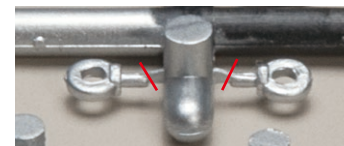
4 ギアボックスにドロップリンクとリアアンチロールバーを取り付ける

- 34号で提供されたランナーパーツのドロップリンク×2と40号で提供されたリアアンチロールバーを用意する。



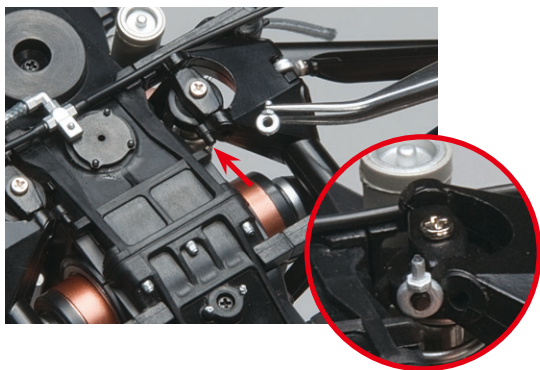
- 赤丸で示した部分がドロップリンク。

- ランナーパーツを裏返し、ドロップリンク×2をカッターで赤線のように切る。



- パーツを傷つけないよう注意しながら、パーツのギリギリのところを切る。

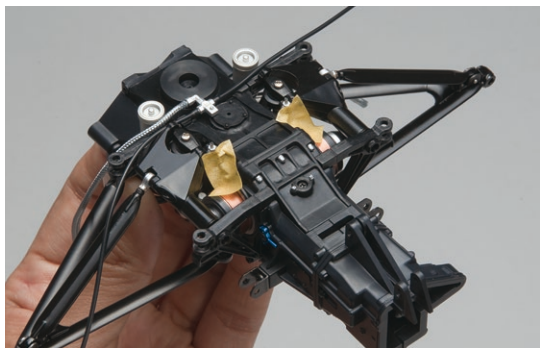
● ギアボックス右側にあるベルクランクの赤矢印で示した突起に、ドロップリンクの輪の部分を写真のように突起を上にしてはめる。



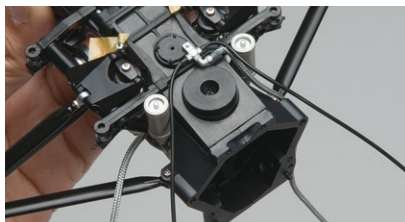
● 1センチ程度にカットしたマスキングテープを用意し、ドロップリンクの先端にかからないようにしながら、輪の部分を仮留めする。



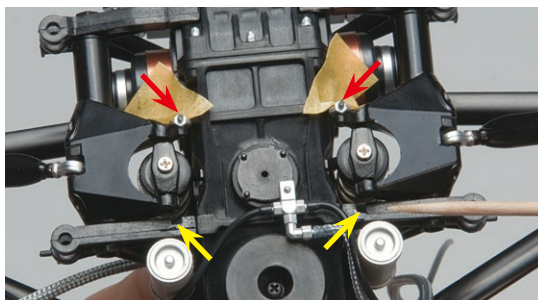
● 同様に、左側のベルクランクの突起にドロップリンクの輪をはめ、マスキングテープで仮留めする。



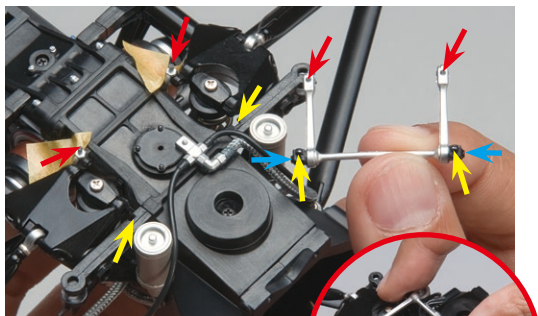
● 次の作業がしやすいように、ブレーキラインTピースに取り付けられたホースを、写真のように車体前方に寄せる。



● 赤矢印で示したドロップリンクの先端と黄色い矢印で示した凹みに、つまようじで瞬間接着剤を少量塗る。



● まずリアアンチロールバーの赤矢印で示した凹みをドロップリンクの赤矢印で示した突起に合わせた後、リアアンチロールバーの黄色い矢印で示した突起をギアボックスの黄色い矢印で示した凹みに合わせる。



■ 青矢印で示した黒い突起部分の塗装は剥がれやすいため、強くこすらないように注意する。また剥がれてしまった場合は油性の黒マジックで補修する。

● 組み合わせた部分を1分ほど押さえる。



今号の完成

ギアボックスにリアサスアーム(下)、ブレーキラインTピースを装着したギアボックス(上)、トーリンクブラケット、ドロップリンク、リアアンチロールバーを取り付けた。



保管パーツ

今号で使用しなかった①クォーターパネル(右)、②リアサスアーム(右上)、③トーリンク(右)、⑥ビスP×2のほか、残りの⑤ビスG×3、ランナーパーツに残ったギアボックスオイルラインユニオンB、ギアボックスオイルラインユニオンEは、後の号で使用するまで大切に保管しよう。

